

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地域の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として気象庁が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

“春一番”って、怖いよ～!?

「♪雪が溶けて～、川になあって～、流れてゆきます～～もうすぐ春ですね～♪」というキャンディーズの“春一番”が大ヒットしました。若い方々には申し訳ありません、もう30年以上も前のことになります。最近では“ゆず”も歌っていました。長く厳しかった冬から、春の到来を待ちわびるウキウキした気持ちをよく表した歌詞であり曲です。

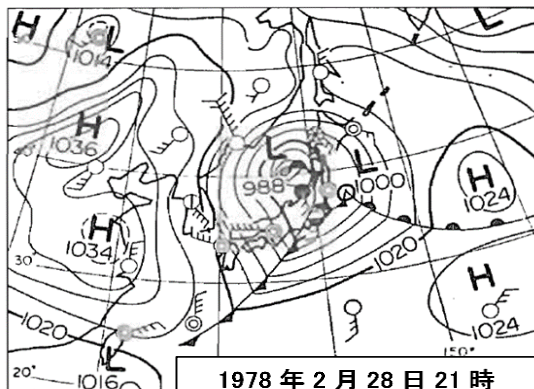
だ・け・ど、天気の詳細や予報などで用いられる“春一番”の意味・イメージは大きく異なります。一般的には、冬から春への移行期に、初めて吹く暖かい南よりの強い風を言いますが、気象庁では立春から春分までの間に、その地方の広い範囲で初めて吹く、暖かく（やや）強い南よりの風と定めています。各地方で“春一番”が吹いたことを地元の中核気象台が発表していて、関東地方の発表は気象庁本庁が担当し、右の条件を満たした最初の日に、総合的に判断して発表されます。ただ、これらの条件が整わず、“春一番”が吹かなかったことになる年もあります。

関東地方の“春一番”の発表条件

- ・立春から春分までの間
- ・日本海に低気圧がある
- ・関東地方に強い南風が吹き、気温が前日より高くなる
(最大風速が8 m/s以上、風向は西南西～南～東南東)

2月に入ると、これまでの冬型の気圧配置が弱まることも多くなりますが、南北で大きな温度差がある日本海では、低気圧が急速に発達して東進することがしばしばあります。西日本から東日本では、この日本海の低気圧に吹き込む南寄りの強い風が吹き、海は大荒れ、ときには竜巻などの突風が吹くこともあります。強く暖かな南風によって気温が上昇したり、雨が伴ったりすることもあり、多雪地では雪解けが急に進み、雪崩や融雪による洪水が起こることもあります。

早春に南寄りの強い風が吹くことは、かなり古い時代から瀬戸内海を中心とする西日本各地で知られていたようです。幕末、壱岐の漁船7隻が早春の五島列島沖で猛烈な南風に遭遇して沈没、53人が犠牲となる痛ましい海難事故が起きたこともあって、春の最初の強い南風を“春一番”または“春一（ハルイチ）”と呼び、海難防止の教訓として語り伝えられています。



1978年の関東地方の“春一番”は2月28日に吹きました。大気が不安定でもあったことから川崎市付近で竜巻が発生、北東方向に時速およそ100 kmの猛スピードで鎌ヶ谷市付近に駆け抜けて行きました。午後9時半頃、地下鉄東西線の南砂町駅と葛西駅間にある荒川橋梁を走行していた中野行き10両編成の列車がこの竜巻に巻き込まれ、後ろ3両が脱線、うち2両が横転、20名余りの負傷者を出す惨事となりました。また、一連の竜巻で36人が負傷、家屋損壊は289棟にのぼっています。

“春一番”は、俳句の季語でもあり季節の便りでもありますが、“春の嵐”の一つであり、同様に災害の発生について注意・警戒を促すための言葉でもあります。

“春一番”の予想にウキウキではちょっと困るんです・・・。

問い合わせ先
危機管理課災害対策係 電話 2274

令和4年2月10日
危機管理課発行